



〔管理者〕 来迎寺地区 〔保全団体〕 来迎寺地区会

ポイント

来迎寺地区内、最上川の河岸段丘に、木立に囲まれた石造りの水場があり、その底から水が湧き出ている。江戸初期、この地域は出羽三山参詣の主要な経路にあたり、参詣の導者（どや）と呼ばれる人々が、この清水に立ち寄り身を清め、喉を潤したと伝えられている。昭和初期頃までは地域住民の生活用水として利用されていた。この湧水は、大石田町の登録文化財。この名水のある来迎寺地区は、そば街道沿いにあり、一帯にそば畑が広がっている、そばの在来種「来迎寺そば」の由来ともなっている。



アクセス (北緯38.575607°、東経140.385129°)

大石田町内、国道347号線を通り、江戸期に舟運で栄えた船着き場跡を目指す。最上川左岸の川沿いを通る県道381号線に入り、東に道なりに500m程進むと「清水の里 来迎寺」の看板が見えてくる。この看板のあるY字路を左折し250m程進むと左側に「導者清水」の標識。その脇の道を歩いて降りていく。

